

みやけの風

第 132 号

平成 15 年(2003年) 7月 12日(土)発行
 発行：三宅島災害・東京ボランティア支援センター
 発行責任者：上原 泰男
 東京都新宿区神楽河岸1-1 セントラルプラザ 10階
 東京ボランティア・市民活動センター気付
 TEL：03-3260-7573 FAX：03-5229-1646
 E-mail：tokyocenter@cmpo.org

今年も小学生以上の子ども達の一時帰島が実施されることになりました。3年がたち、避難先各地で進級・進学を重ねた子供たちは新しい友達もたくさん出来ているようですが、また島の友達を思う気持ちも変わらないようです。この災害を経験した島の子ども達の絆は大人が思うより強いのかもかもしれません。夏の高校野球甲子園予選も始まりました。都立三宅高も18日に初戦を迎えます。今年も是非、応援に行きたいと思っています。

みんなの声

かあちゃんの駐在日記より

5月18日、港区の芝浦小学校で開催された三宅島島民ふれあい集会へ、姉娘と行かせて貰いました。曇り空の下、天候の回復を願いながら芝浦小学校へ近づくと、都内各所からのはとバスが集まっています。たくさんのボランティアのみなさんの誘導で、小学校へ入りました。

校庭には、クサヤのにおいが立ちこめています。私たちにとっては、たまらなくなつかしいにおいですが、集合住宅の中で焼くには、ちょっと勇気が要ります。なにしろ独特のにおいがしますから。でも、私たちは中野区の官舎にいたときも、同じ階のみなさんに「島帰りなので、クサヤを焼きます。においは許してください」とお願いしていました。14階の最上階だったので、それで済ませられたのはラッキーでした。高尾に来てからは、そんなに気を使うこともなく過ごしています。でも、島のみなさんは、多くの方が集合住宅です。きっと、クサヤを焼くにも、気をつけていらっしゃるのではないのでしょうか。

故郷をなつかしむには、において大切ですよ。すごいにおいも一気に島へ誘ってくれます。また、アシタバのおひたしもあり、視覚や味覚からも、島の風景を楽しませていただきました。でも、一番のごちそうは、島のみなさんの笑顔。

「まあ、あんた、来てたの」

「よく来たねえ」

主人も私も、島のみなさんに会いたかったのですが、今、島にいる駐在さんに悪いかなあと、遠慮していました。でも、行ってしまえば、なつかしくて、つい声をかけてしまいます。

高尾署の駐在署員である私たちにできる

ことといえば、この駐在だよりを、お世話になった人たちにとときどき送ることくらいです。でも、『みやけの風』というボランティア広報誌や高尾山報に載せてもらっているおかげで、切れてしまいそうな繋がりを、なんとか保っています。

来られなかった主人や息子と末娘の写真を見せて、保育園の先生や小学校の先生と、「子どもがこうだもん。私たちも歳をとるわけだ」と苦笑い。みんな若いつもりでいるんですもんね。

島にいたころの子どもたちが、お母さんになっていたり、役場の職員として働いていたり。15年の月日の流れを感じました。

また高校生や大学生のボランティアさんもたくさんでした。島のお年寄りの話に、熱心に耳を傾けては、頷きながら、行ったこともない島のように思いつかべてくれているようでした。

うれしかったですねえ。島の話をしているうちに、お年寄りの顔が輝き出すように見えたからです。きっと、

「そうだ。あの島へ帰るんだ」

と前向きな思いになれるのではないかと思いました。

あちこちで同じような光景が見られ、私は、「もっともっと話を聞いてあげてください、島の人しか知らない島の良さを。そして、聞いたら、誰かに伝えてください、その話を。」と心の中で願っていました。

島が復興するときには、若い人の力も必要です。どこかで島のことを聞き、思わぬ方向から復興に協力してくれる人が、出てくれるのではないのでしょうか。

若いボランティアのみなさんの姿に、島と島の人たちのためにありがとう、と思った一日でした。(高尾下駐在所 假屋 照香)

みんなで聞こう！リスクコミュニケーション

現在三宅村では、三宅支庁との合同で開設している『総合相談窓口』を窓口として行っている『ミニ懇談会』とならんで大事な事業のひとつとして、「火山ガスと健康影響について」の説明会（『リスクコミュニケーション』）を各地で開催しています。これは、平成15年3月24日に出された「三宅島火山ガスに関する検討会報告書」を基に、慶応大学医学部教授の大前先生の協力を頂きながら行なっているものです。担当の役場職員に伺ってみました。

Q：「三宅島火山ガスに関する検討会報告書」とはどういうものですか？

A：健康への影響を考慮しながら、火山ガスがどのような状況になれば島民の帰島が可能になるのか、安全確保対策の面から科学的に検討したもので、島民の皆さんが火山ガスのリスクを受容して帰島するかどうかを判断するためまだ火山ガスが環境基準にまで下がらない中で帰島する場合の日常生活のためには、島民の皆さんにはどうしても理解して頂かななくてはならない重要なものです。

Q：今までに、どれくらいの説明会が行われたのですか？

A：7月9日までに各所でリスクコミュニケーションを45回行い、延べ約1,100名の方に参加して頂いています。リスクコミュニケーションの際、熱心な質問や意見により1時間から1時間半の予定時間が2時間以上に及ぶこともしばしばあり、担当者としてはうれしい悲鳴をあげています。

Q：この機会に心配なこと不安に思っていることなど聞きたいと思っているのですが？

A：これまでも「三宅島で雨にあたり、汗をかいたりすると皮膚が赤くなるのはどうして？」「火山ガスを長い間吸った場合、内蔵への影響はないのですか？」といった健康に関する質問や、「二酸化硫黄は温泉のガスと同じですか？」「三宅島の火山ガスにはどのようなガスが含まれているのですか？」といった火山ガスに関する質問、「火山ガスの濃度が5ppmでも、ガスマスクをしていれば農作業を続けてよいのですか？」といった帰島後の行動に関する質問など、様々な質問がありました。三宅村では、そのような質問に対してできる限りその場で答えていくとともに、主な質問に対して「火山ガスと健康影響に関するQ&A」として広報に折り込み、その場にいなかった島民の皆さんにもお知らせして行きます。

Q：リスクコミュニケーションを聞きたいのだけれど？

A：三宅村では、リスクコミュニケーションは今後も継続的に行なわなくてはならないと考えており、島民の皆さんが集まる機会によんでいただければ伺います。三宅村総務課までご連絡下さい。よろしくお願い致します。

お問合せ先：三宅村総務課

TEL:03-5320-7824



そば打ち体験に三宅島の方をご招待

稲城を中心にそば打ちを体験してもらおうと活動している同好会「打香保(ダカボ)」から『三宅島の方に自分で打ったそばを味わってもらおう』とお申し出がありました。

各日ごとに、4人1グループで5組(約20名)の方をご招待。ご希望の方は、開催日の1週間前までに、三宅島島民連絡会までお申し込みください。できれば、4人1組でお申し込みいただければと思いますが、4人集まらなければ、三宅島島民連絡会事務局で組み合わせを調整しますので、お気軽にお問合せください。

日時：7月27日(日)

8月2日(土)・9日(土)・16日(土)・24日(日)・30日(土)

いずれも10:00集合 10:30~14:00 昼食つきです

(ご自分で打ったそばを、お楽しみいただきます)

場所：須黒食品物流センター2Fキッチンスタジオ

(JR南武線矢野口駅より徒歩5分)

お申し込み：三宅島島民連絡会事務局 TEL&FAX：03-3269-1243